

IV-23

住民の視点から見た東北の公共事業

～平成12年度 東北地方建設局建設白書～

国土交通省 東北地方整備局 企画部 ○大平 知秀

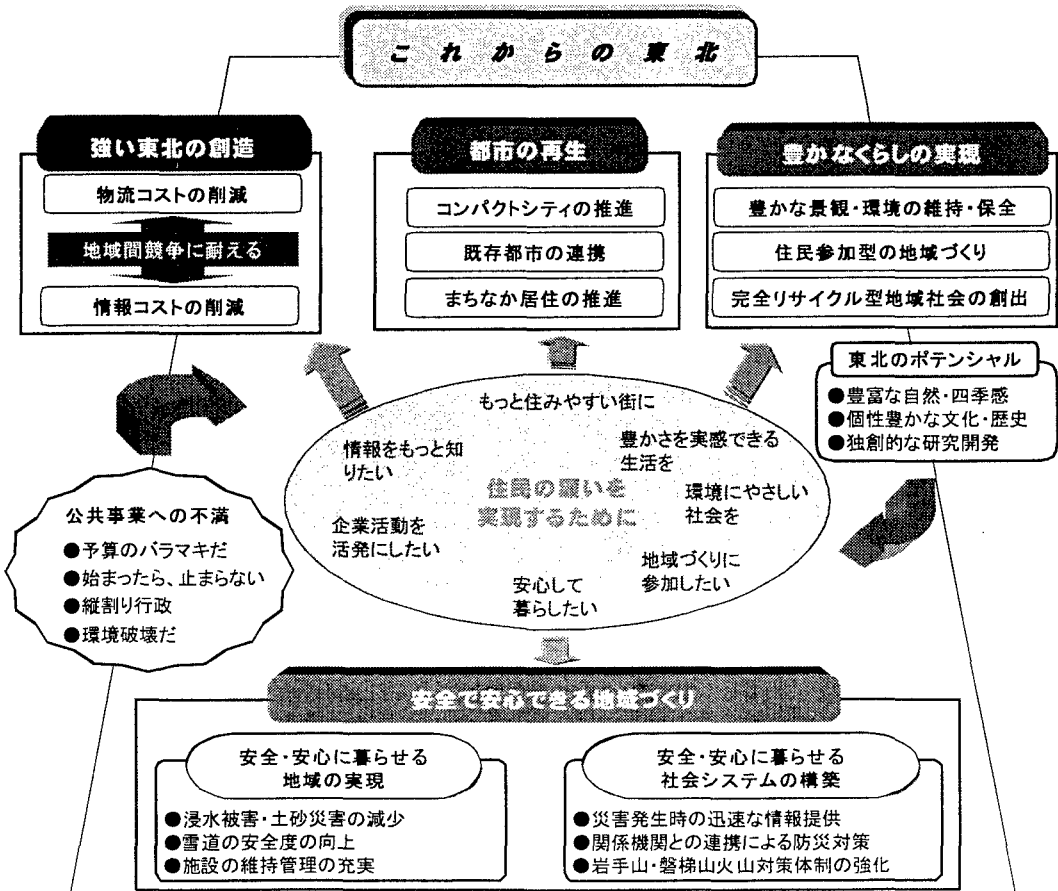
1. はじめに

東北地方は、広大な面積と豊かな自然環境に恵まれ、大きなポテンシャルを有しているもののそれらを十分に活かしきれていない状況にある。東北地方建設局では、常に地域のニーズを的確に踏まえながら、河川や道路などの基盤整備を通じて、豊かな国民生活の実現と経済発展に努めてきた。

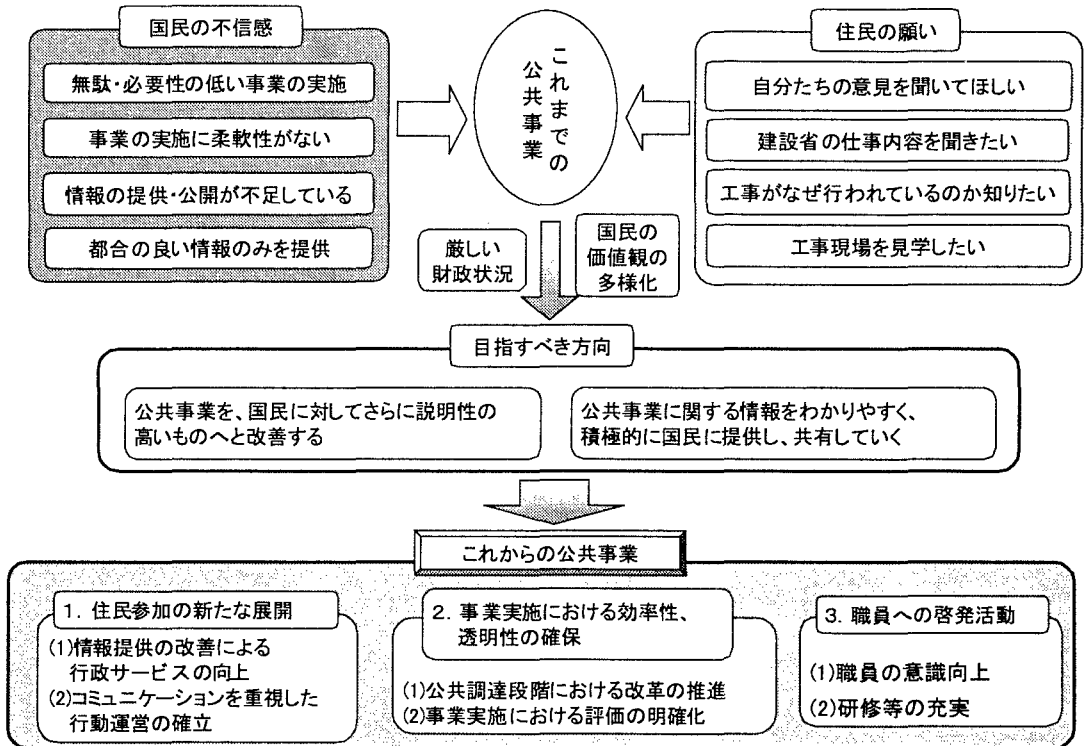
また、最近では公共事業を取り巻く新たな国民のニーズに対応し、行政自らの効率性・透明性を高めるとともに、国民との双方向のコミュニケーションを重視しながら、幅広く情報を共有しあい、未来に向けて国民が真に豊かさを実感できる地域づくりに関して積極的な関わりを持ってきている。

本報告は、東北地方建設局版建設白書の概要をまとめたものである。東北地方建設局としては、最後となる今回の白書は、とりまとめの工夫として、これまでの文章形式による構成を改め、地域の現状や社会的背景、住民の日常生活における願いや要望を抽出し、これらと東北地方建設局の施策の関係をより分かりやすく紹介するために、「図解方式」としている。

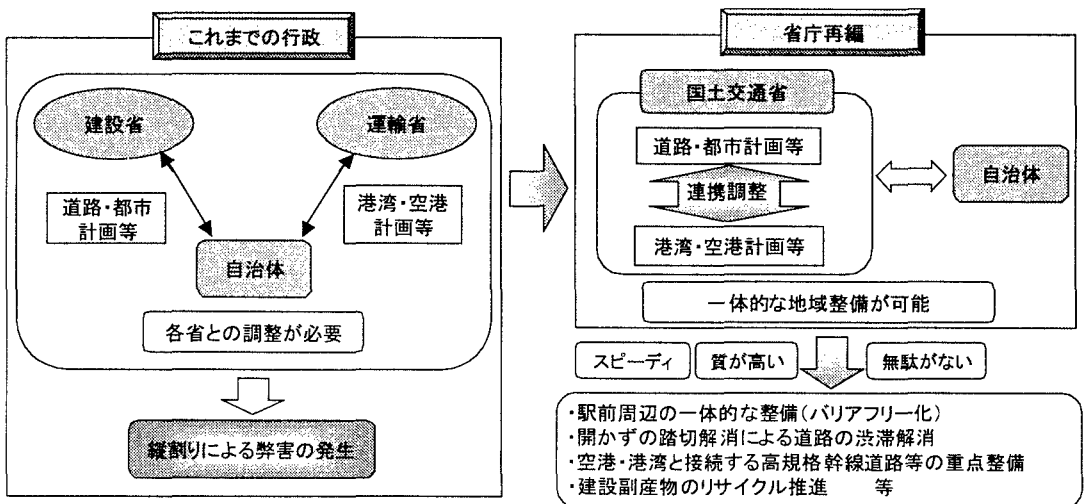
2. 東北の地域づくりを支える社会資本整備の推進



3. 対話型行政の推進



4. 省庁再編による統合のメリットを最大限に活かして



5. おわりに

2001年1月6日、東北地方建設局は省庁再編に伴い国土交通省東北地方整備局として生まれ変わった。新しい世紀を迎え、美しい自然や多様な生活・文化等地域のポテンシャルを活かしつつ、人々が自然の豊かさとからしの利便性・快適さを同時に追求できるように、よりきめ細かくより総合的に地域づくりを推進していきたいと考えている。